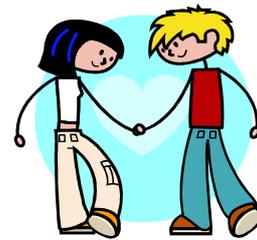


第33号 うつべ人権協ニュース

令和3年1月 発行
内部地区人権教育推進協議会



新型コロナウイルス感染症に対する 偏見や差別をなくしましょう

新型コロナウイルス感染症に対する不安等から、感染した方やその家族、医療や福祉関係者等に対する偏見や差別、いじめ等の人権侵害が起きています。

偏見や差別的な言動に惑わされず、正確な情報に基づいて、冷静に行動することが求められています。



偏見・差別の実態について

この感染症に関する偏見・差別の事例（*1）には次のようなものがあります。

1. 三重県A市の中華料理店名を名指し、虚偽の書き込みがSNSで拡散。
 - ・「従業員が感染している」 ・「店の周りは気を付けた方がよい」
 - デマが拡散されたため来客が激減し、休業に追い込まれた。
 - 投稿者は特定され、名誉毀損の疑いで書類送検された。
2. 三重県B町で感染者確認以降、ネット上に誹謗中傷の書き込みが多数。
 - ・親は熱があるのに仕事に行って同僚と飲み歩いたのか。投石部隊かまわんやれ。
 - ・もし小学校の誰かが感染していたらこの親子は引越し確実やな。投石どころではすまないと思う。
 - ・小学校に電話したけど冷やかしならやめてくださいと言われたわ。
3. 三重県のネットパトロールでも差別的な書き込みを多数検知。
 - ・〇市のコロナ感染者、C中学校の生徒とかやばいでしょ。〇通りの〇店とか普段よく行くけど危ないな！
 - ・おガキ共が〇の家の前に密に集まりギャーギャー奇声を上げ遊んでいます。コロナ自粛要請完全無視。こうしてコロナが〇市を侵食していくんだ。名前書いたらかな・・・
4. 三重県人権センターへ感染症関連の相談が約50件（令和2年3～8月）
 - ・入院していた家族が、退院後に「コロナで入院していたのと違うか」と言われた。根も葉もないデマに家族が不安になっている。
 - ・隣県へ親族の葬儀に出席し、職場復帰したところ、悔やみではなく感染を警戒する言葉だけをかけられた。
 - ・感染者の出た自治体にある会社で働いているが、会社への来客にお茶を出したら「コロナがうつるから要らない」と言われた。
 - ・他県から県内に仕事で来ているが、車にいたずらされた。

（*1）「新型コロナウイルス感染症対策分科会偏見・差別とブライアンに関するワーキンググループ」（第1回）令和2年9月1日より引用

負の連鎖による偏見・差別の拡大について

日本赤十字社によると（*2）、新型コロナウイルス感染症は、3つの“感染症”という顔を持っており、これらが負の連鎖としてつながることで偏見や差別が生まれ、感染もさらに拡大すると紹介されています。

（*2）「新型コロナウィルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」

発行年月日 2020年3月26日初版 日本赤十字社

この3つの“感染症”の顔とは

◆第1の顔は「病気そのもの」です。

このウイルスは、感染者との接触・飛沫でうつることがわかっています。

◆第2の顔は「不安と恐れ」です。

ウイルスは見えるものでなく、ワクチンや薬も開発されていません。

今までに経験したことがなく、わからないことが多いため、不安や恐れを感じ、振り回されてしまうことがあります。

◆第3の顔は「嫌悪・偏見・差別」です。

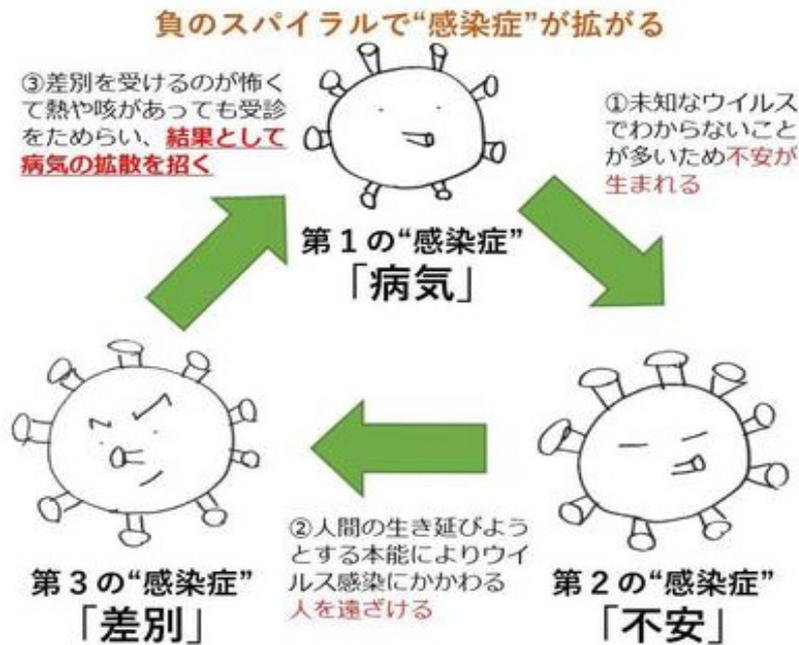
ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されていきます。



3つの“感染症”の負の連鎖とは

- この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで。
- わからないことが多いので不安が生まれます。生き延びたいという本能からウイルス感染にかかわる人を遠ざけるようになります。
- 差別を受けるのが怖いので、病院に行かなかったり、通院を隠して生活することで拡散してしまいます。

この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながる事です。



3つの“感染症”は
どうつながっているの？

図「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」より ©日本赤十字社

3つの“感染症”を防ぐためにはどうすればよいか？

◆第1の“感染症”「病気そのもの」を防ぐために

「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」「マスクをつける」など、一人ひとりが衛生的な行動をすることで自分だけでなく、周りの人の予防につながります。

◆第2の“感染症”「不安と恐れ」に振り回されないために

気づく力、聴く力、自分を支える力を高めることが必要です。自分の安全や健康のために必要なことに気づき、耳を傾けて見極め、自ら選択してみましよう。

◆第3の“感染症”「嫌悪・偏見・差別」を防ぐために

確かな情報を得て、差別的な発言に同調しないようにし、この事態に対応しているすべての方々に感謝し、敬意を払いましょう。

この感染症は、3つの顔を持って私たちの生活に影響を及ぼします。自分が感染しないと誰も断言できません。このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれません。

私たちは自分の立場で何ができるかよく考え、実行し、みんなが心をつなげてこの負の連鎖を断ち切りましょう。

ネット上の人権侵害について

コロナ禍のもとネット上に心ない書き込み、臆測によるデマ、誤った情報の拡散など、「コロナ差別」といわれる人権侵害が発生しています。

ネット上の人権侵害については、次のようなガイド（＊3）が提供され、注意を喚起しています。

（＊3）人権啓発冊子「あなたは大丈夫？考えよう！インターネットと人権＜三訂版＞【法務省】2018年（平成30年）12月改訂

◆ネットで相手を傷つけないために

- ・他人の悪口や差別的な内容は書き込まない！
- ・根拠のないうわさ話は載せない！
- ・出処不明の情報を安易に拡散しない！
- ・使用する言葉に注意！暴力的な言葉はゼットイNG！
- ・知り合いの連絡先や住所など個人情報を無断に載せない！
- ・雑誌や書籍に載っているマンガ、写真、記事などを勝手に掲載しない！
- ・他人の書き込みを“あおる”書き込みをしない！
- ・人が写っている写真や動画は勝手に掲載しない！



ネットの向こう側にも、あなたと同じ人間がいます。顔が見えないからこそ相手の人権を尊重することを忘れず、配慮を持ってネットを利用しましょう。

人権意識を高める啓発ポスターを展示

11月9日（月）から20日（金）の2週間、内部地区市民センター（別館）に展示しました。例年は、内部地区文化祭時に人権啓発コーナーを併設していましたが、今年は、文化祭が中止となったため、市民センターでの展示となりました。内部小学校6年生の皆さんに出展して頂き、その作品のなかには、他面からとらえたものもあり、意識の高まりに驚きました。

これらの作品は、市民センターを訪れた多くの皆さんや別館を利用した各団体の皆さんの目にも留まったことでしょう。

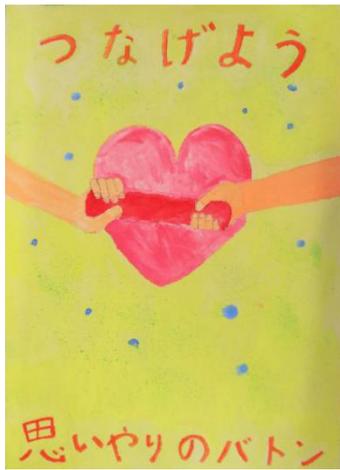
出展して頂いたポスターを順不同で掲載します。



6-B 筒井 優介



6-A 西村 尽



6-C 小原 倅喜



6-C 種瀬 心愛



6-B 栗本 彩葉



6-A 前唄 侑那



6-C 水谷 あやは



6-B 川上 大登



6-C 田中 香里



6-B 北村 至流

内部地区子ども人権フォーラム

令和2年12月11日(金)、内部地区小中学校の子ども人権フォーラムが開催され、内部地区人権教育推進協議会からも17名の委員が参加しました。以下に、主催者からの実施内容の報告をいただきました。

12月11日、内部地区の小中学校それぞれを会場として子ども人権フォーラムを行いました。本来であれば、小学校6年生と中学校2年生が内部中学校に集まり、グループに分かれ、与えられた人権課題に関することを議論し、発表するなどして、人権感覚を磨き、高め合う活動を行う予定でした。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一堂に会してのフォーラムの実施は見送り、ZOOMを活用したオンライン上における講演会と意見交流会、そして講師先生から投げかけられる課題を中心とした議論の場をそれぞれの学校で設けるというものになりました。



講演会の講師は安田先生（反差別・人権研究所みえ）にお願いし、障がい者差別をテーマとしてご講演いただきました。多くの方が「差別は駄目」と分かっている、「差別をなくすための行動」ができていないのではないかと投げかけられました。

実際に「差別は駄目だ」という思いをもって学校の先生をされていた安田先生も、いざ事が起こった時にすぐに率先して行動できなかったことを先輩の先生から指摘され、気が付いたことがあったという具体的なお話をされました。そのようなことがこれまでに皆さんにもあったのではないかと。そして、実はそれが「皆さんの中に潜む差別の心」なのではないかと語りかけられました。分かりやすい資料、具体例があり、講演会を聞いていた全員にとって気づきの多い、また、人権感覚を高められるものでした。



この講演会を受け、参加した児童・生徒がそれぞれの学級やグループで講演会の感想を交流したり、今後自分たちがどのような行動をしていかなければならないのかを考え、深め合う場を設けました。

交わされた意見をしっかり受け止め、今後も様々な人権課題と向き合っていくことで、子どもたちの人権感覚がより高められることを期待しています。